

ティーチング・ポートフォリオ作成の意義と課題 —徳島大学ティーチング・ポートフォリオ作成WSを通して—

久保田 祐歌¹⁾ 南川 慶二²⁾ 上岡 麻衣子¹⁾

1) 徳島大学総合教育センター 2) 徳島大学教養教育院

1. はじめに

2008年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」において、授業改善に向けた教員の努力や成果を適切に評価するという観点から、ティーチング・ポートフォリオ(TP)の導入・活用が提案されて以降、高等教育機関におけるTPの普及に向けた活動が行われてきた。特に、大学評価・学位授与機構が中心的な役割を果たし、日本での現状に即したTP作成のためのワークショップ開発や効果検証の取組が進められてきた(大学評価・学位授与機構, 2009; 2012)。

TPは、教育効果の説明責任を果たすものとして、1989年以降にアメリカで普及・拡大した(杉本, 1997)。大学において組織的にTPを導入する目的としては、教員評価、優秀教育賞選考、授業改善の3つを挙げることができる(杉本, 1997)。高等教育機関でTPの導入を目指す際には、これらの目的に鑑みた導入方法の検討が要される。

本発表では、徳島大学でのティーチング・ポートフォリオ作成WSの実施後アンケート結果を参照することでTP作成の意義を確認し、国内大学での組織的なTPの導入事例に基づき、全学的なTPの導入や普及を目指す際の課題を提示する。

2. 徳島大学TP作成WSの概要

ティーチング・ポートフォリオは、「自らの教育活動について振り返り(自己省察:Reflection)、自らの言葉で記し、多様なエビデンスによってこれらの記述を裏づけた教育業績についての厳選された記録」であり、通常8~10頁の本文と添付資料から構成される。TPは、一人で作成することも理論的には可能であるが、メンター教員のサポートを得ることでより深い省察ができTPの質が高まると言われている(栗田ほか, 2010)。

徳島大学では、2011年度からティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップを開催している(SPODのプログラムとして開放し、2014年度から全学FD推進プログラムの一環として実施)。開催の目的は、「教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修の一つ」と設定している(赤池ほか, 2016)。授業期間終了後の3月頃に3日間のWSを企画し、2011年度から2015年度までの5年間で23名が参加しTPを作成している。WSは、ティーチング・ポートフォリオ・ネットワークによる「TPワークショップ基準」を満たしたものである。

3. アンケート結果から見た成果と課題

ティーチング・ポートフォリオ作成WSの後には、参加者を対象とした実施後アンケートを行っている(2011年度から2015年度の回答率は100%)。5年間のアンケート結果のうち、成果に関する設問である、「教育理念がより明確になった」「ティーチング・ポートフォリオは自身の教育改善につながった」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者の割合は100%に達している。

参加者が感じたポートフォリオ作成の意義については、アンケートの自由記述の内容から、次の3点に集約することができる。①日頃の教育活動を振り返りことができる、②教育理念を考えることができる、③教育についての考えを文章化することができる。

TP作成WSの課題は、参加者数が年々減少していることである(Wsへの参加は任意)。WSの参加者満足度は高いことから、TPとは何か、TP作成の意義が広く周知できていない可能性が考えられた。そのため、2016年度はティーチング・

ポートフォリオ作成プレWSを9月に計2回(各60分)開催し、3月のTP作成WSの前にTPの概要や作成の意義を伝える機会を設けた。

4. 国内高等教育機関でのTP導入例

文部科学省の調査によると、2013年度の段階で組織的にティーチング・ポートフォリオを導入している大学は全体の20.6%に上る(文部科学省, 2015)。TPを組織的に導入している顕著な事例としては、愛媛大学と佐賀大学の取組を挙げられる。

愛媛大学では、2009年からTP作成WSを導入し、2010年度からの第2期中期計画に『ティーチング・ポートフォリオ(教育業績記録)』を活用して、教員の教育業績を適正に評価する仕組みを作る』ことを掲げている。2015年度までの期間において、TP作成WSへの参加者の拡大とメンターの育成、TPを活用した教員の教育業績評価の指針の作成等を行っている。愛媛大学においてはTP作成を教員全員の義務とせず、テニユア・トラック制度のPD研修プログラムにTP作成を組み込みことで、若手教員を対象としたTPの普及を促進している。

佐賀大学においても、2009年からTP作成WSを導入し、第2期中期計画に「ティーチング・ポートフォリオの導入など、教員の教育改善を支援するシステムを構築する」ことを掲げている。佐賀大学の取組の特色としては、「簡易版TP(教育の責任、理念、方法についてのみ記載)」を導入している点が挙げられる(皆本, 2012)。2013年度から2015年度にかけて、全学的に標準版と簡易版TPの作成が推進されている。また、第3期において、「簡易版ティーチング・ポートフォリオの作成・更新率100%を維持」し、「標準版ティーチング・ポートフォリオの作成・更新率を全授業担当教員数の15%以上とする」と定めている。佐賀大学においては、全教員に簡易版TPの作成を義務付け、作成されたTPは学内教職員、学生が閲覧できるようにしている(皆本, 2016)。

5. TPの組織的導入における課題

組織的にTPを導入するということは、全教員

にTP作成を義務付けることと同義ではない。TP作成によって教育の質を向上したい教員にその機会を提供する体制が整備されていることが重要である。しかし、より多くの教員がTP作成を通じた教育の振り返りの機会を得ることができるようにするためには、愛媛大学のように適切な対象に絞ってWSへの参加を義務付けたり、佐賀大学のように標準版とは異なる「簡易版」を開発することで全教員の作成の義務化を行う等の工夫が要される。その際に考慮すべきは、当日報告するように、TPの作成時の教育理念の明確化において、メンターによるメンタリングが、作成者が自己省察し理念を確認する上で、重要な役割を果たしているという点である。

参考文献

- 赤池雅史・川野卓二・宮田政徳・吉田博・川瀬和也・久保田祐歌・上岡麻衣子(2016)。「2015年度徳島大学FD推進プログラムの実施報告」『大学教育研究ジャーナル』13, 94-118.
- 栗田佳代子・加藤由香里・井上史子ほか(2010)。「ティーチング・ポートフォリオ:導入の意義と可能性」『大学教育学会誌』32(2), 55-58.
- 佐藤浩章(2009)。「(1)ティーチング・ポートフォリオ導入の条件と課題—愛媛大学を事例に—」, 大学評価・学位授与機構『日本におけるティーチング・ポートフォリオの可能性と課題』
- 杉本均(1997)。「アメリカの大学におけるティーチング・ポートフォリオ活用の動向」『京都大学高等教育叢書』2, 14-30.
- P.セルディン, 川口昭彦監修, 栗田佳代子訳(2007)『大学教育を変える教育業績記録』玉川大学出版部
- 大学評価・学位授与機構(2012)『ティーチング・ポートフォリオの導入と次のステップ』
- 皆本晃弥(2012)『ティーチング・ポートフォリオ導入・活用ガイド』近代科学社
- 皆本晃弥(2016)「佐賀大学における質保証の取り組み」
- 文部科学省(2015)「大学における教育内容等の改革状況について(平成25年度)」